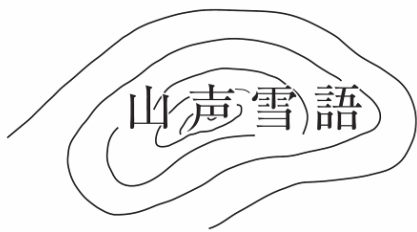


京交山岳部報

例会予告 (2018年4月～2018年5月)

例会・行先	日程・集合	担当者	コース
第2779回 高畑山 点名「山中村」 (2等△772.9)	4月12日(木) 集合 参加者で 調整	吉田 武	京都東 IC～新名神土山 IC～ R1 旧鈴鹿峠・・高畑山往復 ～R1 土山町頓宮～岩室橋～ 善福寺・・長坂山往復～R1 頓宮 ～栗東湖南 IC～京都東 IC
備考 日帰り装備			
第2780回 御坂山地, 節刀ヶ岳 (1736.4)と新倉浅間 神社の桜鑑賞	4月17日(火) ～19日(木) 集合 参加者で 調整	山下幸宏	4/16 22:30 京都一富士吉田 4/17 若彦トンネル・・大石峠・ ・節刀ヶ岳・・若彦トンネル ——石和温泉(泊) 4/18 大蔵経寺山往復—ほった らかし温泉入浴—京都
備考 石和温泉 「華やぎの章 慶山」に泊ります。			
第2781回 丹波 妙高山 (2等△546.7)	5月10日(木) 集合 参加者で 調整	吉田 武	京都縦貫沓掛 IC～京丹波みずほ IC～R9 三和町戸平峠～後地～ 市島町多利・・妙高山往復～R9 三和町千束～京丹波 IC～沓掛 IC
備考 日帰り装備			
4月の集会		4月の企画運営委員会	
日時 4月11日(水) 18:30～ 場所 holly's café(ホリーズ カフェ)		日時 4月25日(水) 18:30～ 場所 holly's café(ホリーズ カフェ)	
5月の集会		5月の企画運営委員会	
日時 5月9日(水) 18:30～ 場所 holly's café(ホリーズ カフェ)		日時 5月23日(水) 18:30～ 場所 holly's café(ホリーズ カフェ)	



想定されていなかった時代

清水 康裕

今年に入ってから集会や3月14日(水)の総会で京交山岳部の部員全員が認識を新たにせざるを得なかったことがある。

というのは、高齢で認知症などを患われ在籍意思を自分で判断しにくくなられた部員の在籍意思確認方法や、退部されたOB部員が亡くなられた場合の弔費支出について審議され、認識を新たに、次のとおりの結論に至ったものである。

認知症などを患われ自分で判断しにくくなられた場合、最も関係が密である部員がその家族を通じて在籍意思を確認していただく。退部されたOB部員の死亡事実を確認した時点で、その都度企画運営委員会において弔費支出について検討し決定する。

先輩らが1949年に京交山岳部を創部され、規約を作成されたときから長い年月が経過し、その間OB部員の制度が付加され、現在創部期には想定されていなかった時代にすでに突入している。

ところで、世界的な話題では、スポーツで日本人選手が活躍している。

今年韓国平昌で開催された冬季オリンピックで、フィギアスケートの羽生結弦の金、スピードスケートの小平奈緒、高木菜那と高木美帆の姉妹の金をはじめ、メダルラッシュに沸いた。それに引き続きパラリンピックでも村岡桃佳のアルペンスキー女子座位で金1個を含むメダル5個、成田緑夢の男子バンクドスラロームで金とスノーボードクロスで銅、新田佳浩のノルディックスキー距離男子10キロクラシカル立位で金をはじめ、メダルラッシュに沸いた。

大坂なおみが女子テニスの4大会に次ぐプレミア・マンダートーナメントで優勝した。シングルスでのプレミア・マンダトリー大会優勝は日本人女子初である。

京交山岳部の話に戻そう。

みなさんのご協力を得て総会を開催でき、誠にお礼申し上げます。2019年(平成31年)は創部70周年を迎える。まだ時間があるので節目の行事について企画委員会で議論し、集会で報告し意見もいただき進めていくことになった。

また、京都府山岳連盟から6月初旬の一斉清掃登山や6月16～18日に全日本登山大会京都大会の協力要請があるので、あらためて集会で呼びかける。

忙しい中、いろいろお手数をかけることになるが、よろしく願い申し上げます。

(2018. 3. 21. 記)

【第2777回例会】

山岳連盟自然保護委員会主催「府民野鳥観察会」

岡田 茂久

2018年2月25日(日)、京都府山岳連盟自然保護委員会主催の野鳥観察会の報告。集合場所の阪急西京極駅前で9:00から参加者受付し、西京極球戯場補助グラウンド脇の広場でレクチャーを行い9:30に出発。一級河川の桂川は鳥獣保護区に指定され、大都市では珍しく豊かな自然が残されている。日差しも暖かく穏やかな天候で、一般42名(内小学生2名)自然保護委員14名、講師として日本野鳥の会3名、計59名の例年とおりの賑やかな観察会となった。



日本野鳥の会京都支部の講師を中心に、参加者は3つのグループに分かれて、阪急桂川鉄橋脇から桂川の河川敷左岸の自転車道路を遡上、国道桂西大橋の下をくぐる。

折悪しくこの辺りは桂川洪水対策として、堰の撤去、河川敷の開削工事をしており、水辺は全面的に石河原となり早くからブルドーザが轟音を響かせている。

それでも下見の折は、身近な水辺の鳥である「セキレイ」や「カモ」「ミソサザイ」類を確認したが、本番の今日は全く姿を見せない。

上野橋近くでようやく多くの鳥たちが姿を見せる。講師持参の「フィールドスコープ」を覗かせて頂く、我々が普段は肉眼か双眼鏡でしか見たことのない鳥達の、鮮明な姿と鮮やかな色彩を目の当たりにし改めて驚嘆する。

観察ルートは上野橋を渡り桂川右岸に移動



する。このあたりの桂川では工事は未だ進められておらず、両岸とも水辺の叢も残り「わんど」も散見する水鳥たちの天国である。この周辺でも多くの河川敷及び水鳥を観察できた。おまけは右岸堤防道路脇で愛宕山を正面にして4等三角点32.0mを見つけることが出来た。

次いで西芳寺川に掛かる橋の交差点右下の、有名な洛西用水の「(ひ)の字型越流式分水槽」を見学する。洛西用水とは古墳時代後期の6世紀に、桂川に秦氏が築造した「葛野大堰」から取水する古代の水路を受け継いでいる由緒あるもので、嵐山渡月橋上流にある「一の井堰」の基になるのが「葛野大堰」といわれている。洛西用水は「一の井堰」から取水し、中ノ島の分流路を経て洛西から向日市、長岡京市から西羽東師の排水機場まで伸びている農業水路である。

「(ひ)の字型越流式分水槽」とは、取水した貴重な水を耕地面積により等分に分水するため考案された堰で、西芳寺川の下を「サイホン」で潜った洛西用水の水は、サイホン出口で「(ひ)の字型越流式分水槽」に供給されている。この近辺を歩く機会があれば是非立ち寄られることをお勧めする。

野鳥観察会は桂川右岸を更に遡り、正午過ぎに松尾橋上手の公園で解散となった。

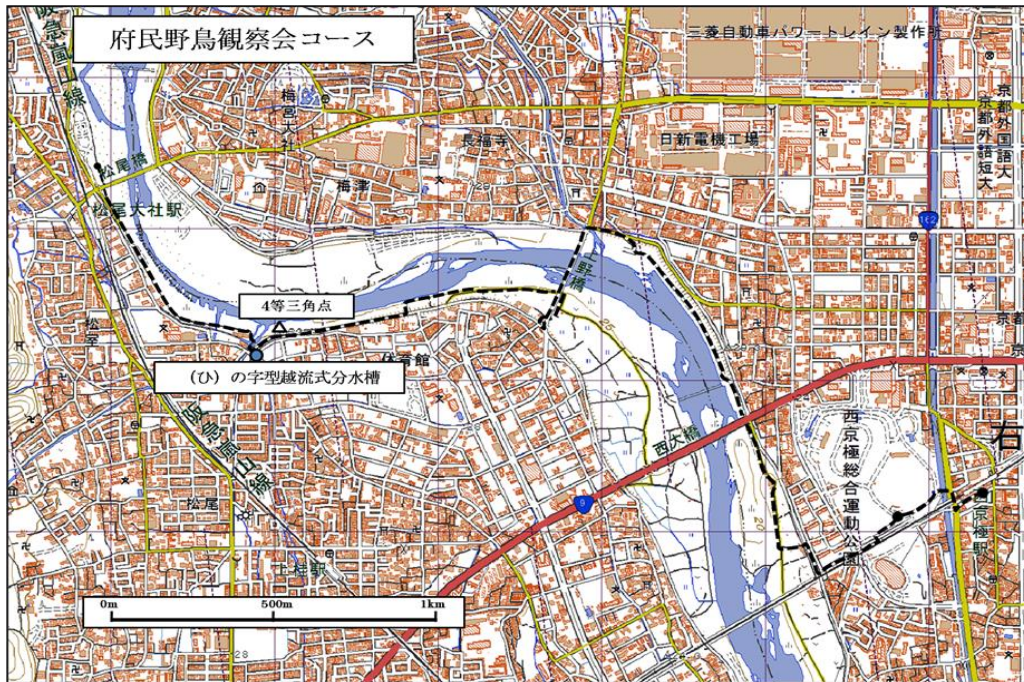
今回の野鳥観察会で確認できた野鳥の種類は次のとおりである。ちなみに「野バト」は野鳥には算入しないということである。



洛西用水
(ひ)の字型越流式分水槽

オカヨシドリ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、コガモ、キンクロハジロ、カワアイサイ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、イカルチドリ、イソシギ、ミサゴ、トビ、カワセミ、モズ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ヒヨド

リ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ベニマシコ、ヒバリ、カシラダカ、ホシハジロ、アトリ（花鶏）。合計36種類であった。



【個人山行】H30.2. 7～12

キリマンジャロ登頂記

OB 井戸澄夫

70歳までにキリマンジャロに登りたいという思いを持っていた。当初は昨年2月に行くつもりであったが、母親の体調不安があり自重した。しかし年々衰える体力を考えるともう最終のチャンスと思い、昨年の春にタンザニアへの格安航空券（期間17日間）を購入しておいた。キリマンジャロに登れなくとも女房とサファリツアーでもすればよいと思った。女房とは一昨年には屋久島宮之浦岳や利尻岳に登り、私よりも体力があるのは分かっていた。私は昨年7月の夏山登山で心臓の動悸が激しくなり、もう山登りは無理なのかなと思ったが、病院で精密検査してもらった結果では特に心臓や循環系の病気はないということであった。また8月末に女房と登った富士山では、ゆっくり登れば心臓の動悸を起こさずになんとか登行できることが分かった。女房との個人旅行は慣れているので、インターネットで情報収集して計画を立てた。5泊6日のキリマンジャロ登山と2泊3日のサファリツアーの日程をまず決めて現地のツアー会社と交渉することにし、前後の滞在ホテルをネットで予約し、タンザニアのビザも事前に取得した。また高山病に良く効くというダイアモクスという薬を城陽の木津川クリニックで処方してもらった。

出発は2月4日、伊丹から羽田に行き、カタール航空でドーハへ、ドーハからキリマンジャロ国際空港である。羽田では横浜に住む長男家族が見送りにきてくれた。モシというキリマンジャロ山麓の町(h-1000m)に2泊し、現地にたくさんあるツアー会社の中から、事前にインターネットで調べていたキリクライマーズという会社に行き価格交渉した。最初は1人1400ドルと言われたが、1000ドルにしてほしいとねばったら、1150ドルでよいということになった。大体予想通りの値段であった。もっともこのうち850ドルは入山料や山小屋使用料で政府が取り上げるのである。他にポーター達へのチップが必要になる。

7日朝ホテルにワゴン車が迎えに来て、1時間ほどで登山口のマラングゲート(h-1847m)に到着。ここで冬用のシュラフとダウンジャケットを借りた。またサポートメンバーを紹介された。我々2名に対して、総勢10名が付く。内訳はメインガイド1名、サブガイド1名、コック1名、ウェイター1名、ポーター6名である。すべて地元の部族チャガ族の人達である。ポーターが多すぎると言ったが、規定通りの人数だといって取り合わない。メインとサブのガイドが随行してくれる。メインガイドのアブーはカレッジで英語を学んだということだったが、登山中ずっとチップをいくら欲しいという話をするのには閉口した。登山口ゲートではポーターの荷物の計量を行う。1人20kg以下の制限がある。ポーターのもつ荷物は食料・水・食器等とそれぞれの個人装備である。我々が預ける荷物はそれぞれ5kgくらいである。水はh-3700mの小屋までは運び上げる必要はないようだ。

1日目はh-2700mのマンダラハットまで熱帯雨林の中を行く。道は緩やかな傾斜の幅の広い遊歩道である。2月はタンザニアでは乾季にあたり、我々の山行中好天が続いた。小川が流れ、木々の間にオナガザルが出没した。マンダラハットではアメリカ在住のインド人2名と一緒にになった。埼玉の製造業で働いていたとのことで、日本語が上手であった。小屋の数や食堂に集まった人の数から推定して、本日の宿泊客は50人程度である。収容能力は100人ほどと推定できる。もちろん随行のポーター達はその数倍である。小屋のトイレは水洗でシャワーもある。食事はコックが作りウェイターが食堂に運んでくれる。夕食はまずスープが出て、前菜、メインと続き、最後にフルーツが出る。我々は肉を食べないと言ったら野菜中心の料理がずっと出た。タンザニアではチキン料理が多いようである。朝はコーヒー、ミルクとパンである。フルーツもでる。昼はランチボックスであり、グリルドチキン、サンドイッチ、バナナ、ジュースである。チキンはガイドが喜んで食べてくれた。

2日目はh-3720mのホロンボハットまで登る。マンダラハットを出ると熱帯雨林を脱し、低い灌木地帯となる。アザミなどの日本の山岳地帯で見られるような花々が目を和ませてくれる。ホロンボハットに近くなると、ジャイアントリフレシアという奇異な植物が現れる。ホロンボハットでは南スーダン大使館職員という日本人グループと同室になった。本人以外は韓国人で、この日本人が韓国に赴任していたときの友人達らしい。彼等は韓国のツアー会社を介してきていたが、下請けは我々と同じキリクライマーズであり、値段を聞けば添乗員も同行していないのに450ドルも高い。キムチや焼肉の韓国グルメ付きらしいが中抜きがひどい。南スーダン大使館職員の話では、南スーダンは自衛隊のPKO部隊が撤退した後、現在いる日本人の民間人は2名だけということである。一方、大使館には10名の職員がいまだに勤めているらしい。たっぷり休暇をとってキリマンジャロ登山に来れるくらいに暇になったということなのだろう？

3日目は高地順応日であり、近くのゼブラロックというところまで往復約3時間散策した後、小屋で休養である。周辺にはジャイアントリフレシアが多く立ち上がり特異な風景を作り出している。それ以外に高い植物はない。ホロンボハットは富士山と標高はほぼ同じであり、気温は10度C前後であった。高山病の症状はまだ出ていなかったが、予防のためダイアモクスを飲み始めた。

4日目はh-4700mのキボハットまで登り、一旦仮眠を取った後、夜間登山で山頂を目指す。早朝、夜明けとともに出発する。道は相変わらず幅広く緩やかであるが、足取りがのろくなり空気が薄くなっているのを実感する。昼までにキボハットに着いて仮眠を多く取りたいと思うが、なかなか足が前に行かない。ガイドがザックを持とうと言ってくれたが、もともと軽いので断った。アメリカ在住インド人グループも年寄りが多く、我々と前後しながらザックなしで登っていたが、無理せずに荷物を持ってもらえと日本語で忠告してくれた。下山後聞いたことだが、この中の一人が高山病で死亡したということであった。キリマンジャロではよくあることらしい。4000mを越えると植物は消えうせ、岩と砂礫ばかりの茶色の世界になる。天候は良く、目の前にキリマンジャロの雄姿が迫る。山頂部の雪もよく見える。キボハットには午後2時に到着した。1000mの登りに8時間かかった。疲れきって冬用シュラフにくるまり爆睡する。夕食にはコックが暖かいスープとスパゲッテ

ィを作ってくれ、ウェイターが運んでくれる。実にありがたかった。山頂への登りは時間がかかるのは分かっているので、通常より早い午後 10 時に出発した。気温は 0 度に近く冬用のダウンジャケットとオーバーズボンを着込む。富士山と同様の砂礫と岩の急斜面である。息が切れ 10 歩登って暫時休憩を繰り返す。今度はザックをメインガイドのアブーとサブガイドのトマスに持ってもらい、背中を押してもらった。幸いにして頭痛と吐き気がなかったのはダイアモクスのおかげか。小屋を最初に出発したが、後続の若い人達に次々追い抜かれ、ガイドからももう下りましょうかと言われたが、女房からも励まされてあと少しだけ頑張ろうと登り続けた。夜が白み始めた頃、私の高度計ではあと 200m も登る必要があると言ったら、アブーがあと 2 分で山頂だということで半信半疑で登ったらギルマンズポイントの標識が立っていた。高度計は 5000m を超えると狂うのかな？ギルマンズポイントは h-5685m でキリマンジャロ外輪山のひとつのピークである。最高点はウフルピーク (h-5895) でギルマンズポイントから 2 時間以上かかる。体力の残っている人はウフルピークを目指す、もはや小生には体力も気力も失せていた。ギルマンズポイントから見る日の出は格別であった。太陽は東方のマウエンジ峰 (h-5120m) 山頂から姿を現した。至福のときである。山登りを続けてきて良かった。女房にはここまで付いてきてくれて感謝の一言である。キリマンジャロクレーターの内側はうっすらと雪化粧していた。外輪山部分には以前より少なくなったとはいえ雪がたっぷり積もり、氷河の始まりを形成していた。山頂には 30 分ほどいて下山にかかった。夜通し登ったのでふらふら状態ですぐうとうとしてしまう。そのつどガイドから眠るなの声が響く。たしかに岩場は危険である。しかし座って休憩しようとしても歩きつづけるように言われる。出来るだけ早く下りたほうがよいのであろう。しかし眠たい。ふらふら状態でキボハットまでは 4 時間かかった。キボハットで南スーダン大使館職員が横になっていた。聞くと下山時に岩場で転倒して骨折したとのこと。彼はヘリコプターで病院に運ばれた。2 時間ほど仮眠し食事してすぐにホロンボハットに向け下る。高度が下るにつれて歩くのが楽になる。3 時間でホロンボハットに着いた。長い 2 日間であった。

6 日目はマラングゲートまで約 2000m を一気に下る。途中のマングラハットで昼食をとり 6 時間でゲートに着いた。オフィスでギルマンズポイントの登頂証明書もらった。駐車場で支えてくれた 10 名のメンバー一人一人にお礼を述べ、チップを渡した。総額 550 ドルで相場より多めに渡した。皆さん嬉しそうだった。ホテルに戻り女房とキリマンジャロビールで乾杯して登頂を祝った。

翌日はサファリツアーの基地であるアルーシャに行き、キリマンジャロと同じように現地ツアー会社と交渉して 2 泊 3 日のキャンピングサファリに行った。

サファリはンゴロゴロ保護区・マニャラ湖国立公園・タランギーレ国立公園の 3 箇所、屋根開放式のランドクルーザーによるドライビングサファリである。

19 日深夜に羽田に戻った。かかった費用は 2 人でトータル 75 万円であった。

[キリマンジャロ登山行程]

- 1 日目 9:30 モシ-(車)-11:00 マラングゲート (h-1847m)-(入山手続き・準備)-13:00 出発・・・
17:00 マングラハット (h-2700m) (泊)
- 2 日目 8:30 出発・・・15:00 ホロンボハット (h-3720m) (泊)
- 3 日目 高度順応日 ゼブラロック往復 (約 3 時間) ホロンボハット (泊)
- 4 日目 6:00 出発・・・14:00 キボハット (h-4700m) (仮眠) 20:00--(食事)--22:00 出発・・・
- 5 日目 6:30 ギルマンズポイント (h-5685m) 7:00・・・11:00 キボハット (仮眠) 14:00・・・
17:00 ホロンボハット (泊)
- 6 日目 8:00 出発・・・14:00 マラングゲート 15:00-(車)-16:30 モシ



まずは熱帯雨林を歩く



奇怪な姿のリフレッシュ



h-4000m からのキリマンジャロ



ギルマンズポイントにて



マウエンジ峰に出る太陽



最高峰ウフルピークを見る

例会報告 (まとめ)

例会 No.	目的地	天候	月 日	担当者	参加者	記 事
2777	山岳連盟自然保護 委員会主催 「府民野鳥観察会」	晴れ	平成 30 年 2 月 25 日(日)	岡田茂久		別稿詳報
2778	残雪の比良 堂満岳(1057m)	晴れ	平成 30 年 3 月 3 日(日)	井戸澄夫	清水康裕 山下幸宏, 岡本義弘	次号詳報

雑 報

△△△ 3月の集会
平成 29 年度 京交山岳部 総会報告 (次号報告)

△△△ 2月の企画運営委員会

日時 2月21日(水) 18:30～

場所 holly's café (ホリーズ カフェ 烏丸四条西入ル)

出席者 井戸, 岡本義, 吉田, 清水

内容 例会予告, 岳連関係報告, 総会準備ほか

△△△ 他山岳会の会報(受贈分)

3月号 京都山岳, 趣味の登山, 比良山岳, 木雞

2017年 跋涉(ばっしょう)譜(ふ) (大阪低山跋涉会)

△△△ 部報発送担当からのお知らせ

職場の異動に伴い, 部報の発送先, 発送方法に変更がある場合は, 必ず部報発送担当者(松田)まで連絡してください。

パソコンに部報データを送信することもできます。送信希望の方はパソコンのメールアドレスを部報発送担当者に連絡してください。

△△△ 平成29年度部費受領について

平成30年3月21日(祝・水)現在, 先月号までに報告した方々に加え, 次の方から平成29年度部費を受領していましたので報告します。

(敬称略) 岡田茂久

△△△ 平成30年度部費について

部費は年間3,000円です。また, 郵送希望の方は郵送料1,000円を足して年間4,000円です。

平成30年3月21日(祝・水)現在, 次の方から平成30年度部費を受領していましたので報告します。

(敬称略) 大槻雅弘, 大倉寛治郎, 鷺見壽末子, 和田良一, 篠田勝美, 岡田茂久, 山岡昭弘

《新入部員募集中》

平成30年4月1日

京都市右京区太秦下刑部町18

京都市交通局内

京 交 山 岳 部

<http://kkmc.web6.jp>